

第2回放射線災害時のスクリーニング作業の実際について（実践講習会）を開催して
～隠し玉アリ！！～

神奈川県放射線管理士部会
横須賀三浦原子力災害特別派遣チーム
横須賀北部共済病院 濱田順爾

昨年10月、横須賀三浦原子力災害特別派遣チームと神奈川県放射線管理士部会が協力して第1回放射線災害時のスクリーニング作業の実際について（実践講習会）を開催致しました。本年は続く第2回として、平成17年10月22日（土）14：45から、横須賀共済病院において開催致しました。スタッフは派遣チームを中心に総勢10名で望み、あいにくの空模様ではありましたが、県内各地から総勢25名の参加者がありました。

実際の放射線災害時には、我々診療放射線技師が短時間かつ的確にスクリーニング作業を行うのみならず、放射線の専門家としての我々の知識や技術が求められる場があります。特に今回は原子力災害対策特別措置法にて緊急時の応急対策の拠点施設として指定されている横須賀オフサイトセンターの見学を盛り込みました。国の原子力防災専門官が常駐するこの施設の役割を知ることも重要なことだと考えます。

プログラムの最初は集合場所である横須賀共済病院を出発し、徒歩10分程度のところにある横須賀オフサイトセンターの見学と専門官との意見交換を行いました。有事の際のオフサイトセンターの機能などを知ることが出来ましたが、経済産業省の管轄にある横須賀オフサイトセンターでは、横須賀市内にある原子炉燃料成型工場であるGNF（グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン）を管轄してはいるが、原潜事故などに関しては管轄外であるという実態には驚きました。核燃料輸送中の事故なら国土交通省の管轄、原潜の事故なら総務省の管轄ということになるそうです。お役所の縦割り行政の弊害が、放射線災害においても同じなのは問題アリなのではないでしょうか。有事にはもっと合理的に機能して欲しいものです。

その後横須賀オフサイトセンターから再度横須賀共済病院に戻り、実践演習を行いました。「サーベイメータの基礎」、「避難所を想定したサーベイメータでのスクリーニング」、「避難所における除染作業」の全てを実践演習の形式で行いました。

除染そのものは実際避難所では医師が行う作業と思われませんが、専門家たる我々もスクリーニング作業のみならず、除染作業の実際を知っているべきと考え、除染作業を講習内容に盛り込みました。講習後のアンケート調査でも、このテーマを取り上げたことは好評を得たことが確認できました。教える側に立った私たちも、事前にかなりハードに勉強を余儀なくされました。（こんなことは言わなくていいか、、、）

スクリーニングでは前回好評を博した模擬被災者は今年はその顔でした。（笑）

前回あまりうまくいかなかった模擬線源の選定は、今回とびきりの隠し玉を用意するこ

とが出来(参加者にはお教えいたしました)スクリーニング実習でも現実に近い感覚を提供できたと考えております。この と隠し玉の正体を知りたい方は、是非横須賀まで遊びに来てください。

神奈川県放射線管理士部会と横須賀三浦原子力災害特別派遣チームでは、今後ともこういった講習会を開催し、会員の皆様にサーベイメータの使用方法や、避難所における除染作業の実際を習得する絶好の機会を作っていきたいと考えております。特に横須賀三浦原子力災害特別派遣チームは、より実践に則した訓練を主体に活動して来ており、この先も方針を変えず突き進む予定です。ご期待ください。